

ランチオンセミナー 3

アトピー性皮膚炎の 寛解導入と寛解維持

座長 五十嵐 敦之 先生 NTT東日本関東病院 皮膚科 部長

講演 1 アトピー性皮膚炎の寛解導入・維持を目指して
ークリニックにおける現状と変化への期待ー

江畑 俊哉 先生 ちとふな皮膚科クリニック 院長

講演 2 寛解維持の意義と達成のコツ
ー成功体験と患者教育の重要性(病院編)ー

片桐 一元 先生 獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科 主任教授



2021年11月13日(土) 11:30~12:30

会場 京王プラザホテル[第3会場 5F コンコードボールルーム B]

講演 1

アトピー性皮膚炎の寛解導入・維持を目指して －クリニックにおける現状と変化への期待－

江畑 俊哉先生 ちとふな皮膚科クリニック 院長

生物学的製剤等の新規治療の登場は、アトピー性皮膚炎(AD)の難治例の寛解導入、維持に大きく寄与し、クリニックでも取り入れることができるようになった。クリニックには多数のAD患者が受診し、病院と比較すれば重症例が少なく軽症、中等症例が多いが、それでも寛解導入、維持に成功している事例は決して多くない。自施設で提供できる治療手段の限界、短い診察時間、不十分な外用治療、アドヒアランスの低下、不規則な受診、治療意欲の低下、病状や治療に対する患者医師間の認識の相違、心理社会的背景など医師、患者の両サイドに諸要因が存在する。治療目標を患者と共有し、計画的な診療により寛解導入、維持を達成できる場合もあるが、不十分な治療とともに妥協し、あきらめてしまっているケースなどが思い当たる。マンネリを打破して、よりよい変化を実現するために、1)評価ツールの活用による病状の把握と治療法の検討、2)新規治療の知見の習得と患者への提供あるいは情報提供、3)積極的な病診連携、4)寛解維持のために安心して継続できる外用療法の工夫などが大切と考える。講演では自らの診療を振り返りながら、上記の4点について述べてみたい。

講演 2

寛解維持の意義と達成のコツ －成功体験と患者教育の重要性(病院編)－

片桐 一元先生 獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科 主任教授

寛解導入および寛解維持は、「日常生活に支障をきたすことがない状態を維持する」とした、アトピー性皮膚炎診療ガイドラインの治療の目標そのものと言える。

寛解導入にあたっては、治療により症状が改善することを示す成功体験が重要である。その患者にとって「何が問題点であるのか」、を明確にし、症状が改善することを目標に治療を行う。重症度によっては難しい場合もあるが、効果の高い薬剤により重症患者も中等症以下と同程度の状態を得やすくなった。

その後、寛解維持を達成するには、症状に応じた適切な治療選択と種々の悪化因子に対する対応力が必要となる。アトピー性皮膚炎の治療は自宅で患者自身が行うため、患者自身が自らの状況を正確に理解し、ゴールに到達できる治療法を選択、実践する必要がある。加えて、重要な悪化因子であるストレスへの対応も必要である。診療においては、客観的意見として、効果の高い薬剤の使用も含めた治療選択、実践、ストレスへの対応(コーピング)を確認、指導、提案し、患者・医師が共通の目標とするゴールを目指す。時に、医師と患者間の病勢評価が異なることにも注意が必要である。